

校訓

明 信 霸
朗 念 氣



第13号

発行 県立富士宮北高等学校同窓会
北嶺会
静岡県富士宮市宮北町230(北高内)
電話(0544)27-2533(代)

編集 北嶺会広報部
部長 内藤修次



北嶺雑感
着任の挨拶

教頭 市川達明



今回、はからずも十四年ぶりに北高に勤務することになり、なつかしく思うと共に、責任の重大さを感じております。昭和三十六年円筒の柱を配した木造の古い講堂で紹介を受けてからの十年間は、苦しい事もありましたが、私の教員生活の中で活気のある充実した時期であったと、当時のことが昨日のことのように思い出されます。ここで建学の精神や校訓を思い、認識を新たにして努力をいたしたいと思っておりますので、皆様のご指導ご鞭撻を心からお願い申し上げます。北嶺会にお願い申し上げます。北嶺会

まず、北高では「北嶺」という言葉が会誌や通信に、又、会名としてしばしば使われておりますが、昭和三十七年頃の「北嶺」という言葉にどんな考えや願いがこめられていたかを、一寸紹介してみたいと思います。北嶺を語った「北嶺のしおり」に次のように書いてあります。「北嶺を仰いで、その視線をゆつくり返して自分の足もとに結びつける。そしてまた、爪先から静かに、山肌をたどって頂に至る。つまり、北嶺を向う側に、一幅の絵として眺めることであってはならない。自分としっかりと結びつけることである。もつといえは、自分の中に、自分の北嶺を築いて欲しいのである。北嶺を築いて、生徒に呼びかけが行われ、

ました。まず、部活動の奨励に努めたものでした。北嶺祭、北嶺歌の募集、富士の巻狩、お中道巡り、強歩等、富士山を中心とした行事が催されはじめたのもこの頃でした。こうした生徒への呼びかけの中で、運動部が少しずつ実力をつけ、野球部が東海大会で好成績をおさめ、甲子園出場に選ばれる幸運をつかむことができました。又、文部省指定の研究発表を行うことにもなり、生徒も、職員も、今までやって来た事に自信をもつようになったと思います。こうした学校全体の活動の背景に、木造校舎から鉄筋校舎への建設が行なわれ、明るい活気ある学校に少しずつ衣がえし、北嶺の象徴ともいえる「蒼穹の像」が建立されました。

高き理想、これに向かって努力する気構えづくり、それらを助長する校舎、施設等の建設等、三拍子揃った時代ではなかったかと思

富士雑感
北高に赴任して

教頭 長谷川雅之助



私がまだ二十代後半の頃の事だ。受け持った一人の生徒の就職のことで、その生徒の親戚すじにあたる大手の某観光会社の社長と会った時のことであつた。当時の社長は、驚く程の巨漢で、想い出しても今日まであのようには太い人にならなかつた記憶はない。その社長は若輩の私に経済界の話などをなされた。私は折をみて生徒の親代りとしての就職のお願いを切り出すと、「わしは静岡の人は採用しないことにしている。気候温暖で、毎日富士山を眺め、焼津に揚がるマグロをおかずには、駿河米を食っている人間では仕事は出来ない。」と言われた。その一言は、静岡生れの私には、ガツンとくるものがあった。そうですか、ではとおとなしく帰ってくる訳にはゆかない。結果、採用してもらつたことを想い出す。この四月、緑あつて北高に赴任した第一印象は、富士の山肌

が鮮明で間近かに迫ってくることであつた。以来毎日、雄大な富士を仰いでいる。そして、赴任して間もない或る日、本校の大先輩の富士の見方についての意見を北嶺のしおりの中に見出した。当の観光会社の社長の意見を聞いてか、知らないでか同じような発想が示されていた。「一幅の絵として富士を眺めてはならぬ。自己の立つ足下より、じつと見付めて、視線を富士の山頂まで移動せよ、再び山頂に達した視線を自己の足下まで移動させ、自己の立

る。私は、北高に奉職して、保護者や、同窓生の方々の学校に寄せる期待や願いを、ひしひしと感じている。教育は、子供が自己実現を達成するうえでの教育諸環境の整備と援助である。私は、生徒と先生達をしっかりと理解したうえで、校長の胸にする本校の課題を一つ一つ、具体的に解決してゆく一本のささえになれば幸いである。

今日は、臨教審、産審の答申とあわただしく、まさに平時とは思えない教育界の激動期である。本校も社会的要請を受け止める生徒を、しっかりと教育することこそ、郷土百年の大計を考えた本校創立者 望月軍四郎先生のご遺徳に應える道と考える。

出されます。

午後部活の練習風景を見てみると、室内、グラウンドとも一杯に活用され、昔では「広い」と感じた施設も狭い感じさえします。(当時は生徒数も八百名程度だったと思いますが)勉強の面に於いても自信をもつた生徒が多く見られるようになりまして。今や北高は「岳南に人材を」にふさわしい環境、条件が整って来たのです。質実剛健の気風の中で、文武両道をめざし、今一度、「やる気」「負けん気」「根気」の根性づくりを一層の努力をする時ではないかと思ひます。

霊峰富士の裾野に広がる恵まれたこの学園にふさわしい心身共に大型な人材が生まれることを期待し、私も微力ながら尽力いたしましたと思っております。

最後に北嶺会員の皆様のご発展を祈りつつ着任の挨拶といたします。

部活動の紹介

昭和六十年 前期活動報告

相撲部

一、前年度より
昭和五十九年十一月、県新人戦団体優勝により、一月の高知大会、五月の金沢大会の出場の切符を手にした。両大会とも、伝統ある大会であり、三人制と五人制との違いはあるが、その年のインターハイを占う意味において、関係者から注目される大会である。

高知大会では、勝敗以前に各自の相撲に励むこと、これを目標として臨んだ。選手は、全国の強豪と初めてぶつかり、その中で、全国レベルの相撲の厳しさを感じたことであろう。そして、大会後の冬の寒風の中で、大会の練習に、活力を与えてくれたのも、この大会の重要な成果であった。

金沢大会は、高知大会後五ヶ月間の練習後に開催された。出場校も多少の変動があり、この五ヶ月間の各校の努力のあとが推し量れるものであった。今大会においては、選手達も、全国大会のもつ独特な雰囲気にも慣れ、各自の力が充分発揮されるだろうと期待を持って臨んだが、故障者など予想外の展開となり、かならずしも期待通りの活躍とは言えず残念であった。しかし、そんな中、個人戦において、ベスト十六・三十二という成績を残せたのも、日頃の練習があつたことであろう。

二、昭和六十年 度高校総体にむけて
金沢大会の二週間後、い

相撲部OB「立富士團」の十両昇進祝賀会に、東海大会初優勝という大きな花を添えられたことは、大きな幸運であった。

(東海高校総体結果)
団体戦優勝
朝川・上杉・渡辺・村松・遠藤
個人戦軽量級優勝
朝川・博

軟式庭球部

八月二日より四日にかけて、石川県七尾市において、全国高校総体が開催された。それに向けて、毎日の厳しい練習が続けられていきました。県・東海両大会を通して、選手一同団結して大会に臨む覚悟でいます。今後とも皆様の御期待にこたえるようがんばりますので、御声援の程よろしくお願い致します。

(県高校総体結果)
団体戦優勝
上杉・朝川・村松・遠藤・渡辺
個人戦優勝
遠藤・渡辺

軟式庭球部

富士宮北高の軟式庭球部の顧問を任された三年前、まず、立地条件が整っていないことを感じた。

他の北高一流運動部と比べると、環境、伝統等土壌を備えていると考えた。この地区は、軟式庭球の優秀な指導者が多く、選手層も厚い。トップリーダーから現役の選手まで、大部分が北高の卒業生と言つてもよい。陰に、陽に受ける影響は誠に大きい。

このような状況の中で、部関係者の努力が実り、昨年度、父母会の結成、OB会の再発会、コーチングスタッフの結成、庭球コートの改修等好材料が整い、現在隆盛の途上にあると言える。

昨年夏季以降の成績は、次の通りですが、東海、全国大会の上位で活躍するためには、今一步の精進が必要であると痛感しております。

団体戦二位、男女チーム

- 男子
三位、赤池・深沢組
五位、勝又・高橋組
七位、渡辺・仙名組
○女子
三位、佐野美・森口組
(六位まで全国総体出場)
八位まで東海総体出場)
- 男子団体戦決勝リーグ
宮北2-1天竜林
宮北1-2三島
(二位、東海総体出場)
- ※五十九年度
◎団体県予選
一位、勝又・高橋組
二位、勝又・高橋組
三位、勝又・高橋組
四位、赤池・深沢組
◎団体東海予選
勝又・高橋組、決定戦で三重県に勝ち、団体出場
- ◎新人戦東部予選
一位、渡辺・仙名組
二位、望月和・佐野千組
- ◎新人戦大会
一位、勝又・高橋組
二位、勝又・高橋組
三位、佐野美・声沢組
(二位、東海総体出場)
- ◎高校総体東部予選
一位、勝又・高橋組

新しい時代への船出

工業第六回生



高山 昭三

私達日本人は、この一世紀の間に、農業社会・工業社会・情報社会と、世界に例の無い三つの時代を見つめ、それによって、生活する時をすごした、ということを感じておられます。

ずいぶん前の北嶺会の総会において、一期生の大東京火災株式会社社長の堀川嘉彦大先輩が、現在の日本の繁栄には、日本の学校制度が大きく影響している、という事を話しておられました。その洞察には、舌を巻くと同時に、尊敬せざるはおられません。

農業社会の文明は、中国・朝鮮をへて、日本に伝わってきました。仏教・儒教・ソロバン・筆・紙等。特にソロバン・筆・紙の出現は、その後の日本にもたらした影響は、計りしれないものがありました。

ヨーロッパの階級制度のきびしい英才教育のアメリカの教育制度と違い、江戸末期でさえ、五万軒の寺

界の基礎通貨をポンドからドルへ。このアメリカの時代のシンボルは、宇宙であり、アポロ計画・スペースシャトル計画等は、皆様に御存知と通りであります。

このような事を整理しますと、世界を統一するための英雄づくりであり、地球を制する事を目的としたためのものでした。そしてアメリカは、長厚重大の東海岸から、短少軽薄の西海岸へと経済は移ります。レーガン大統領の誕生により、大統領アレンも選挙地盤も西海岸中心であり、アメリカ国民もこれを選択し、岸へ移った感すらあります。太平洋を渡る輸出よりも、太平洋向けの輸出の方が大きくなったことを見ても、太平洋の時代に入ったものといえます。

地理的に不利な位置といわれた島国日本が、航空機の発達、衛星つまり通信網の技術の革新により、島国であることが、むしろ有利に働いた事もあります。戦後日本は、英雄をつくり、世界を征服する事なく、ひたすら、自動車やテレビ、VT-R・コンピュータ等、いわば庶民のための物を作る事でした。日本人は、人類の価値観を変えることによつて、日本を中心とした、太平洋圏の時代が築かれようとしています。アジアのリーダーである日本、私達もつとつと自覚すべきではないでしょうか。

日本も情報社会になりました。コンピュータの時代です。光通信網です。ニューメディアです。真空管方式の第一世代から、超LSIの第四世代に現在はありまして、第五世代へ入らんとしています。まだ四五年はかかりませんが、第五世代コンピュータは、大量の数値計算を行うだけでなく、より人間らしい知能をもち、人間が行う、創造的な仕事をサポートし得るものと、大きな期待が寄せられていま

す。IBMが最も恐れをい

だき、全世界が目撃している研究グループは、平均年齢二十八才といわれていま

す。これが出来ると、大変化が起き、人間の考え方も変化する可能性もあると言

われています。未知の未来は誠に不安であります。いやおうなしにやってきました。現在豊かであっても、変化が大きいので、厳しい時代になると思われます。

基礎の勉強学習が大事な事は勿論ですが、点数とか数字で評価されない学習も、大事になってきます。それと情報社会は地方の時代でもあります。前向きに、意欲的に対処しなければ、取り残されます。地方の時代を勝ち残して下さい。

良い情報とは、人間関係、即ち人と人とのふれあいを大事にする事が、基本であります。我々凡人には、当り前の事に感動できる境地には、達する事ができないでしょうが、当り前のことを、そのまま素直に受け止める「心」は持っているかもしれません。

物事に行き詰ったときに、原点に立ち返って見直す事が、真理をつかむ上で、重要なことではないでしょうか。立派な人、偉い人もよいが、謙虚な人になる事です。常に感謝の心を忘れないことが、幸福への安全弁であり、

「私が悪うございました。」
と言え、勇氣のある人になりたいたいです。そして、当り前の事を、素直に受けとめる心が、時代の先取りを可能にするでしょう。

東京企業株式会社取締役
相武住宅株式会社専務取締役

建築・企画・設計・監理
匠設計監理事務所
所長 原 田 哲(普一回)
富士宮市大宮町一ノ六 電話五九一七

新刊書籍・雑誌・学習参考書
木内書店
木内 正 和(県立三回)
富士宮市西町二ノ一五 電話二六八四

名勝白糸の滝が育んだおいしいお酒
白糸の原酒
牧野酒造合資会社
牧野 利 夫(商二回卒)
富士宮市下条 電話二一八八代

ビジネス&レジャーに
大小宴会・各種パーティに
富士宮 富士急ホテル
清 延 吉(県立一回)
渡 辺 仁(県立九回)
富士宮駅前 電話六六六六

タイヤシヨップ
(株)富士宮ゴム
望 月 和 男(工四回)
本店 富士宮市西町一ノ二 電話四四七七
鷹岡店 富士宮市入山瀬間北 電話八六一四

酒類・米穀
(有)小林嘉吉商店
小 林 秀 光(県立一回)
富士宮市中央町一ノ六 電話三二六六

三菱電機・光洋ペアリング
産業用機械器具販売
西川商事(株)
代表取締役 西川 恒 彦(昭和34年度卒)
富士宮市北町一九 電話九二六六

国内旅行は赤い風船 海外旅行はマツハ
株式会社 日本旅行
富士宮営業所
所長 渡 辺 俊 六(昭和35年度卒)
富士宮市中央町一六 電話三二五八

あの人。この人

富士宮市助役に就任した

佐野卓司 富士宮市 豊町一十九



富士宮工業学校第一回生(現富士宮北高)卒業後、民間企業に勤めて昭和二十五年から市役所へ。企画係長、公害対策課長、企画部長、都市開発部長などを歴任して五十七年九月に退職。五十八年九月には新しく発足した行革市民委員会の会長に選ばれた。豊富な行政経験と誠実な人柄を買われ、市役所OBとしては二十一年ぶりに第十六代助役に起用された。六十歳。

「よく人から就任おめでとうと言われますが正直言うと少し気が重いですね。吉田市長になって市政の流れも安定してきたようですからこの流れが変わらぬよう女房役を務める覚悟です」五十歳で公害防止管理者の国家試験にパスした努力家である。「職員時代で最も思い出に退職後、三年近く外から行政を見つめてきた。」

残っているのは公害の仕事。東京電力火力発電所の建設反対運動や公害パトロールに燃えたところが懐かしいですね。しかし当時の情熱は今も失っていない積もりです。好きな言葉は「上か西郷隆盛の書簡に」

富士宮市収入役に就任した

大崎敏男 富士宮市 浅間町三番三号



富士宮市第十四代収入役に就任した。知る人ぞ知る市役所の生き残り。終戦後二十年十二月市役所に入庁、以来四十年におたつて務め五十九年九月三十日企画部付きで退職、十月二日市議会の同意を得て就任。同氏は、大正十五年七月八日生まれ、五十八歳。昭

和史と年代も同じで、多感な青年期を送ったと語る。富士宮商業学校第二回生(現富士宮北高)卒業後、海軍航空技術隊に入り、終戦で帰郷、入庁となる。氏は当時を振り返って、「私が入庁した頃は何もない時代で、物資課に配属されたが、米、炭、木材など日用品が全て配給だった。何も無い時代から高度経済成長期、低成長期、現在と全てを経験したような気がする」と語っている。また、市長公室、総務部、企画部と管理部門が長く、

望月軍四郎翁を 顕彰する会発足

市は自己を分析し、派手さはない」と収入役という市三役の一つを担うことについて「収入役の仕事は最後の部分。市の仕事の支払いが主な業務となる。他の部門以上に間違いが許されない。経理・管理部門の職が長く市の内容を理解できると、自分にはあっていると思う」と今後の仕事に意欲を表明した。金銭を直接扱う業務であることなど、金融機関など関係部課と充分協議し、時代を先取りした運営を全体で取り組む必要がある」と即応・正確を強調する。

「郷土富士宮を愛し、又最も貢献力を賜った偉大な翁の業績と事蹟とその精神に報ゆるに余りに少なく又薄きを感じ、全市民的運動としてその顕彰を計る」と決議されたのが昨年六月の当富士宮商工会議所議員総会の時であった。翁が昭和十五年にこの世を去ってより四十五年、今更、又は余りに遅きに失した感じがしないではないが、会議所が中心となって全市民的運動を展開する事の意義はまことに大である。翁は現在の宮町に生まれ、明治の半ばに上京し奉公し乍ら株で財を成し、翁は特に教育に関心が深く、大宮商工学校(現県立北高)の設立と寄付の他大宮小学校講堂、県立富士中(現富士宮)創立費、貴船小学校地代等多くの貢

献をしている。又同翁は産業振興や文化育成にも熱心で浅間神社回廊や福地神社改築、大宮商工会(現富士宮商工会議所)設立基本金等市関係だけでも多岐に亘っている。富士宮市以外でも青山師範学校改築や文部省体育施設用地、早稲田大学、静岡高等学校(県立岡大)、慶応義塾、法政大学等日本全国に同翁の援助は広まっている。大正七年から昭和十三年まで寄付の足跡を追ってみると当時の金額で四百三十七万二千円という巨額の寄付及行為をしているのであつて、ちなみにその寄付金総額を大正十四年の国家予算と昭和五十九年の同予算との比率で換算すると約一千四百五十七億円余という巨額となる。母校北高の正面玄関右手に在る翁の胸像の碑文に「財を集めるよりも之をよく散らすは更に難い、翁は郷土の為に最も良く散じた人である」とその言葉の如くその崇高なる精神と深い情愛を惜しみなく郷土の為に捧げられたその遺徳には只々感銘するのみである。そこで同顕彰会は先ず五十九年七月に各界代表者会議を開き、次いで同年九月に第一回発起人会々合を開き具体的活動の展開について協議、席上組織を記念事業、財務、総務の三専門委員会に分け、夫々の分野で今後の仕事について、各委員会毎に検討を重ね、具体的な事務を決定し、具体的には総務は事務的調整を、記念事業は望月翁の人となりや実績の紹介周知に努め併せて記念事業と

大学・短大合格状況

Table with columns for university/college names and counts. Includes categories like 国立大学, 公立大学, 私立大学, and 短大. Total counts are provided for each category.

産業別就職状況

Table showing employment statistics by industry sector. Categories include 金融・証券, 製造, 建設, etc. with counts for various companies and sectors.

立富士 十両昇進



待ちに待った関取の誕生である。彼は母校・北高を五十三年に卒業し角界入りをして以来吉師六年、三十八場所目に栄冠の十両昇進を果たした。この間足の故障にもめげず本年七月七日名古屋場所より、その勇姿を地元ファンに見せることとなった。ガンバレ立富士！今後の活躍を期待する。 本名 渡辺裕司(昭和五十三年度卒) 立浪部屋 実家 富士宮市青木三三三出身

北嶺会だよりを創刊号より第十二号に至るまで十年間、前編集部長井出元一氏には大変なるご尽力を頂き誠にありがとうございました。 今回よりバトンタッチを受けました新部員(内藤、渡辺、他)何分共未熟者ですが皆様方の御指導を頂き北嶺会の為頑張ります。

昭和三十九年六月末 前北嶺会 会長 今村 堯

連載 北高のあゆみ (第六回)

我が北高の思い出

塩川 健一



「連載北高の歩みも六回目になります。前回は渥美先生の県移管についての原稿を頂きました。今回は県立移管後北高十年についておけん先生におうかがいしたいのです」

「私が着任したのは二十六年四月、その前年から県立校となるのでこいというお話があった。結局移管は二年のびて二十八年、それから四十一年まで、確かに北高に長くお世話になったなあ」

「その十有五年、北高についてズバリ一言で言ってみて下さいませんか」

「これは難問だ。だが強いて言えば、そうだ。今の素晴らしい鉄筋校舎に対して当時の北高は全くとおんポロの木造だった。だから移管後の十数年は木造時代、いやもっと積極的に『木造教育』とでも言えるかもしれない」

「木造教育?」

「つまり手作りだ。商工時代の栄光。その一期生からの輝かしい伝統をいかに受けつぎ、戦後の新教育にいかに取りくむか、それは手さぐりの時代だったんだ。文字通り手づくりで行くしかなかったな。それは教育の本質でもあるんだが、それが一番よく目に見えた時代だった」

「当時の生徒はいかがでしたか」

「文化部はレベル高く体育部は猛烈だった。当時の学校新聞は生徒だけでなく地域の人もファンがいた。演劇部はリヤカーをひいて巡回公演をするという啓蒙精神に満ち溢れていた。体育部に至っては広いグラウンドさえ狭い程だった。野球は連敗が続いていたが意気盛んなった。ハンドでは負傷は日課だった。登山部、陸上、バスケット・バレーもフアイトで名がとどろいていた。クラブではないが、校外試合(スキー者同志の喧嘩)も盛んだったようだが余り覚えてはくれなかった」

「成程当時の雰囲気はよく分りました。所で北高のシンボルとなった北嶺の言葉はいつ生まれたのですか」

「創立以来北高の校長は、所謂大校長が続いた。いやこれは県立以後だけでなく商工創立当時の校長の給与が、当時の町長(現在の市長)の給与を上回っていたのは有名な話だ」

「軍四郎翁の目からは未端行政の長より教育者を高く評価されていたわけ。それはとに角、県立移管初代校長・教頭は、東大出身という豪華さだった。その後北大・文理大と旧官立帝大系が暫く続いた。県立三代校長は後に県教育長となられた石田先生で、北嶺精神の育ての親だ。先生は魂作りの名人だった。魂作りの名人というものがいかに作られるか、それを教えて頂きたい。先生は君達に石田先生の門をたたきなさい」

「恐れ入りました。所で話を『木造教育』に戻して頂いてインタビューを終わりにしたいと思います」

「創立当時の話だが、この学校の建築思想が語られた事がある。この学校は富士山を背景としている以上、

いかなる巨大建築も人工の矮小を示すにすぎない。富士の偉大さに拮抗するの愚はすて、寧ろ富士を仰ぎ、大地に広く深く根をはり、大なる恵みを享受しよう」となる。自然の素材である木材で、しかも平家建てを広く纏らして建築しようという事で軍四郎翁も納得されたという。つまりこれが『木造教育』の原点で、それにしてもあの校舎は懐かしい、正面玄関だけがささやかな二階建て、

「最後に北嶺会に一言」

「これだけ大きな立派な組織に成長したことに心から敬意を表する。同時にあくまで富士の嶺の高い立場に立つて、権力・政治などにけがされずますます発展させたい」

現在：皇陵高校：講師 市内皇陵電話二七二四三

その前の翁の胸像はほんとはよく似合っていた。今の立派な奴は何か翁の胸像を見おろす感じがなくもないな。笑」

で働かされる破目になり、日の丸と、学徒勤労奉仕隊と染め抜いた手拭いで鉢巻を巻いて汗で黒くなり、ひたひたに汗で、これも回りの為と、兵器の生産に励みました。(学校工場とは、当時強制的に学校の一角を工場に没収され、普通教室に現在の体育館の北側にあった棟の五教室と講堂が工場化された)一日の半分を工場で、残り時間は防空壕掘りや軍事教練で、ほとんど勉強した記憶はありません。このような状態が終戦の八月十五日まで続きました。やがて、学制改革により商工学校から実業高校へと校名も変更、六三・三制度により新たに高校へ移籍し結局の所、六年間の学生生活を送ったのであります。

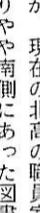
生徒の働きをハミリカメラで追って、現像したフィルムには足許だけしか写っていません。三つも失敗もありません。三つも別の行事を取り入れて生徒が卒業していく三年間に、三つの行事をローテーションでやりたうかという事になり、まず、その一つとして富士山お中道登山を計画・立案しました。しかし、実施までには数々の問題点もありました。万一の場合の通信・連絡の方法、登山中の天候急変にどう対処するか、その時期など、千人以上の大集団を考えると、より慎重な計画を練らなくてはなりません。最後まで通信方法が問題点として残り残りましたが、物理部員がこれを受けて送信機を苦労の末に完成、学校と中里山間の実験の結果、成功したという事を受けて、次に富士山と学校間で試した所、失敗に終り、諦めかけていた所、携帯無線機が市販される事を知り、急ぎ卒業生の電器店から購入、同僚の萩原先生(現島商)のバイクにまたがり、当時は舗装されていない登山道を何度か転倒しながら三合五合(新五合目)に到着、早速学校との交信に成功を収めて原野に放したり、当日

私にとつて北高は忘れられない。何故ならば、私の今日まで歩んできた人生の殆りを北高と共に過ごしてきたからであります。

戦雲急を告げる昭和二十年の四月、小学校を卒業するや富士商工学校の工業機械科に入学を許されました。戦時中のことで商業学校は休校しており、工業には、工業機械科と工業化学科の二つの学科がありました。小さい時から商工学校にあこがれており、小学校六年の時、担任の同意を得て受験をし、その合格発表が、現在の北高の職員室よりやや南側にあった図書館の窓の所に掲示され、合格を小躍りして喜んだのを今でもはっきり思い出せます。

当時の学校は、何から何までが全て軍隊色で、ゲートル、カーキ色の服、戦闘

稲葉 房穂



め、早々に準備に入り、この行事を実行することが出来ました。その翌年には強歩大会を企画、御殿場(大野原)から学校までの三十五キロ強歩を実行に移しました。以後、巻狩り、お中道、強歩が北高の三大行事として定着している事に私は一片の誇りを感じています。今離れて北高を想うとき、広い校地、年輪をきこ

んだ木々、汗を流したグラウンドなど、どれ一つとつても私と切り離すことは出来ません。心から北高の益々の発展を願い、その母校北高を支える同窓会の益々の御活躍をお祈りします。現在：静岡：教諭 富士宮市徒平野50 電話二七二五七七二 (昭和二十五年卒業)

五十九年度 北嶺会の動き

六月一日 北嶺祭見学会に今村会長、市野、大石幹事出席

七月三日 役員会五十九年度総会日程、役割分担、及び役員選挙について協議

七月八日 五十九年度総会、富士急ホテルにて開催役員改選行わる

新役員紹介 (会長) 菊池 千秋(副会長) 杉沢和一、森本正敏、内藤修次、市野智洋、監査 渡辺英賢、高山昭三、(幹事) 稲葉房穂、大石清一、清延吉、加藤勇、松浦真、佐野清治、渡辺俊六、池田力雄、三宅豊彦、望月和男、土井明子(以上校外) 三田村和夫、石川芳文、長嶋和男(以上校内) 高山昭三氏の記念講演(談話、そろばん) 北嶺会だより12号配布

七月九日 新役員会 総会の収支及び反省、他関東支部総会参加の打合せ 相談役選出 今村、井出、牧野三氏の前役員決定

七月二日 望月軍四郎翁墓参及関東北嶺会に会長以下、三宅日原内藤、大石5名出席

一月二日 三役会 望月軍四郎翁先生顕彰する会の委員選出について協議

一月二十九日 三役会 地域事業所、各支部の確認及び各支部長、各代議員氏名の調査について組織部に一任

二月九日 役員会(兼忘年会) 昭和六〇年二月北嶺会入会式、ゲスト選考、校歌のレコード製作等について協議

二月二日 岩田校長の尊父葬儀...:会長...:参列する

二月八日 代表として菊池会長、森本、内藤、市野、大石、高山の各副会長、幹事出席、又ゲストとして高山昭三氏の講演を聞く(新しい時代への船出)

四月六日 北高職員歓迎会、サンパレスにて開催 菊池会長出席 三田村和夫校長幹事、転出に伴い山田充宏氏就任 石川芳文、長嶋和男、山田充宏氏を校内幹事として確認

六月七日 役員会 六〇年度総会日時及、場所等選定、決算、決算書類審議及、北嶺会だより十三号発刊準備打合せを行う

役員会の紹介

支 部 長 森本正敏 副支 部 長 石川昭夫・内藤修次・志村 要 幹 事 伊藤希一・馬飼野弘行・佐野弘美 事務 局 佐野康雄・佐野文紀 外地区幹事40名選出

全支部だより

富士宮支部 五十九年九月七日、プリンス会館魚勝に於いて第一回総会を開催・出席者(会員)は百六十余人、

会員の親睦交流を深めて母校の発展と地域振興を図ろうと当面の事業方針等を決めて懇談会に移った。

創立の恩人故望月軍四郎翁の顕彰碑建立についての協力呼びかけもあり早くも活動開始といった雰囲気、来賓の吉田康市長(元校長)は社会的指導クラスに成長した皆さんをみると頼もしい、更に親睦交流を深めて母校の発展を図って下さい」と挨拶

支 部 長 森本正敏 副支 部 長 石川昭夫・内藤修次・志村 要 幹 事 伊藤希一・馬飼野弘行・佐野弘美 事務 局 佐野康雄・佐野文紀 外地区幹事40名選出

支 部 長 森本正敏 副支 部 長 石川昭夫・内藤修次・志村 要 幹 事 伊藤希一・馬飼野弘行・佐野弘美 事務 局 佐野康雄・佐野文紀 外地区幹事40名選出